

笑顔の松山が好きやけん

～笑顔を守り・広げ・つなげる人たち～

少子高齢化・人口減少は日本全体が抱える課題。こうした時代のなかで、地方中核都市である松山市では、スマートシティ化をいっそう進めて、ICTによる生活利便性の向上を行っていくことが求められます。

ただ、単に決済が手軽に行えたり、情報を共有できたり、移動がスムーズにできるだけではなく、本当のスマートシティ(洗練されたまち)は、子ども、高齢者、障がい者、誰もがいきいきと日々を送れるようなまちで、松山市のまちづくりでは、こうした目線を忘れないでほしいですね。



誰もがいきいきと
日々を送れるような
まちこそが理想

株式会社マルク
代表取締役
北野 順哉さん

誰もが活躍できる真のスマートシティに



自治・行政

市民とつくる自立したまち

ネットワーク型の住民自治組織

まちづくり協議会

「私たちのまちは私たちの手で」を基本理念に、地域住民や団体が連携して組織する、ネットワーク型の住民自治組織「まちづくり協議会」。同協議会が設立されている31地区(令和3



地域の魅力をアピールするまち自慢フォトコンテスト(石井地区)

まちづくり提案制度

若い人たちが「まちづくり活動」に関心を持ち、積極的に参加できる機会をつくるため、平成28年度から学生が主体となるNPO団体のまちづくり活動を応援する「まちづくり提案制度」を開始しました。
応募した団体は、自分たちの考えたまちづくり活動を提案し、実際に取り組みます。今年度は審査により6団体が採択され、制度開始からこれまでに32団体の活動を支援しました。

を検討し、できることから市政に生かしています。

効率的な行政運営の推進

健全な財政運営と 職員資質の向上、 公共施設マネジメントの推進

施策や事務事業などの優先順位を明確にするほか、民間との役割分担や定員管理を適正化するなど、効率的な行政運営を推し進めます。また、持続可能な行政財政基盤を整備するため、事務事業の見直しや経常経費の縮減、債権管理の適正化などを行い、歳出の抑制と歳入の確保に努めます。
さらに、職員の資質を高めるため、実効性のあるさまざまな職員研修を実施しながら、職員の意欲を引き出し、持続できる組織風土を醸成します。

また、民間と連携し未利用物件を売却・貸付するなど、公有財産を有効活用するとともに、市有施設の劣化度や利用状況などを把握し、施設量を最適化したり計画的に維持保全・更新し、財政負担の平準化と効果的な資産運用を行います。

市民と市長が直接対話

タウンミーティング

「現地・現場を大切に」「市民目線を大切に」という基本姿勢をもとに、市民と市長が直接意見交換を行う「タウンミーティング」を平成23年1月からスタート。「地域別タウンミーティング」に加え、「世代別・職業別タウンミーティング」を開催し、10年で123回(令和2年12月末時点)を数えます。
特徴は「聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしない」こと。市民の皆さんからいただいた意見に対し、市長が直接回答するとともに、すべての意見



若い人がまちづくり活動の提案を行う、まちづくり提案制度

